

平成 28 年度 学校関係者評価

1. 教職員による自己点検評価

教職員が客観的に自らを振り返り保育内容の改善に資するために、本園の教育理念・教育方針のもと、その教育目標に沿った評価項目について自己点検・自己評価を実施した。自己点検評価の結果は下図の通りです。

1	園の教育理念・方針を理解し、それに沿った保育計画を立てたか	53.3	40	6.7
2	その保育計画は、マンネリ化や模倣を避け、創意工夫をしたものであるか	68.8	31.2	
3	その計画は、子供の成長・発達に適切であったか	25	68.8	6.2
4	子ども一人ひとりを認め理解し、適切な言葉かけを行い、子供に自信を持たせる保育であったか	31.2	43.8	25
5	適切な学級運営ができたか	15.4	76.9	7.7
6	保育室、園庭、遊具等の環境を清潔かつ安全に保つ努力したか	18.7	81.3	
7	園児が興味関心をもち、豊かな感性を育み、安心して遊べる環境作りをしたか	6.2	62.5	31.3
8	会議等において、自身の考え、意見を積極的に述べたか	25	37.5	37.5
9	行事等において積極的に仕事に参加したか	37.5	56.3	6.2
10	上司への報告・連絡・相談を適切に行い、指示命令には迅速に対応したか	25	75	
11	園長を中心に組織として纏まり偏った人間関係を作る事はなかったか	18.7	75	6.3
12	守秘義務を守ったか	100		
13	家庭の状況・出来事等の情報を教職員が共通理解していたか	31.3	68.7	
14	積極的に研修会などに参加し、保育に生かされたか	6.3	75	18.7
15	自己課題をもって保育技術の向上や、保育者として人間的な成長に努めたか	18.7	62.5	18.7
16	子どもの気になる様子(病気・けが・けんか等)を保護者に伝えたか	37.5	50	12.5
17	保護者からの意見や要望に誠意をもって対応したか	25	68.7	6.3
18	小学校の教育内容について知る努力を積極的に行ったか	6.6	20	66.6

青色：大変良い 緑色：良い 赤色：一部検討を要する 紫色：改善を要する

- 1) 保育計画と内容について（評価項目 1, 2, 3）・・・園の教育理念・方針に沿った保育計画を立て、それが実際の保育の中で適切であったという評価を 93%以上の教員がしている。しかし、それが創意工夫されたものかどうかについては 30%の教員が課題としている。
- 2) 保育の在り方・子供への対応について（評価項目 4, 5）・・・子供一人一人を理解し、適切な言葉かけで子供に自信を持たせる保育ができたと評価する教員は 75%、クラスの雰囲気合った劇作りや音楽会の選曲を心掛け、リーダー育成を念頭に子供がよく考え、発言しやすい雰囲気作りをする学級運営は 94%の教員が出来ている。
- 3) 環境の構成について（評価項目 6, 7）・・・保育室、園庭、遊具などについては清潔さや安全性の定期的な点検は 100%の教師ができた。感性を育むための環境づくりに関しては、教室内に花を飾ることや、教室やトイレの壁面の装飾を随時変更することは時間的に余裕がなかったのは今後の課題である。
- 4) 教職員相互の協力・連携・役割について（評価項目 8~13）・・・朝礼や終礼、各学年での話し合いを通して、園児の個人的な状況、園行事の取り組みなど報告、連絡、

相談をシッカリ行い概ね共通理解は出来ていると評価している。会議における積極的な発言をしている教員は63%いるが、発言が出来ていない教員もいる。

- 5) **研修・資質向上について（評価項目 14, 15）**・・・83%の教員が良い評価をしているように、園外研修で専門講師より学ぶことは若手教員ばかりかベテラン教員にとっても、保育の質をより向上させるために役立っている。又、毎学期に行っている園内研修は、元・福岡教育大学長 田代高英先生に代わり長崎大学の脇信明先生を招いているが、集団作り理論を集中的に学ぶことができ、保育技術の向上に役立っている。
- 6) **保護者への対応・家庭支援・地域の関わりについて（評価項目 16, 17, 18）**・・・子供の気になる様子（病気・ケガ・けんか等）の保護者への連絡は電話や連絡帳で、即時対応が出来ており（88%）保護者からの意見や要望には94%が誠意をもって対応できた。幼小連携は年長担任に偏り（27%）、小学校教育の理解は、年少・年中担任には疎かになっている。

以上の、自己点検評価に基づいて今後取り組むべき課題として

- ① 保育計画の策定に当たっては、マンネリ化、模倣を避け、創意工夫を強力に進めるように努力する。
- ② 様々な会議において、教員が発言しやすい雰囲気作りに努めるのは勿論であるが、的確な発言が出来るよう自己研修に努めると共に、学外での各種研修会への参加を積極的に行う。
- ③ 安全点検についてはこれまで以上に注意を払い安全な環境を保つと共に、教室やトイレの環境美化にいっそう努力をする。

2. 学校関係者の評価

浅川幼稚園が取り組む“集団作りによる保育”の成果が子供達の成長にはっきりと認められることを保護者がよく理解されている。特に劇作りを通して、思考力、発言力、創造力の育成に繋がっていることを実感されていた。創立40周年記念誌の絵本“玄氣のたね”の素晴らしさや、給食が美味しいこと、運動能力を鍛えているので小学校生活を自信をもってスタートできること、劇作りで発言力や想像力が育っていること、ミニコンサートで本物の音楽を聴けること、外遊びが十分にできていること、集中力の高いことを外部の劇団（ドリーム・カンパニー）から褒められたこと、園児たちは自発的に片付けができること、等等嬉しくも、高い評価をたくさん頂いた。

その他、園に対する要望として

- ① 保護者が先生達と気軽に話をしたり、触れ合える場や行事が欲しい。
- ② バスの順番を毎年変更してほしい。
- ③ 親子遠足が雨天中止の時は、親子園内遠足又は振替日を設定してほしい。
- ④ 夏休み後半に慣らし保育を実施し、その中で8月の誕生日会を行ってほしい。
- ⑤ 6月の保育参観の後に、希望者を対象に悩みや気懸りなことを相談のできる時間を設けて欲しい。

などが提案されたが、次年度に工夫して保護者の要望が少しでも叶えられるように善処することを園として約束をした。

以上 （文責 園長 福原洋子）